

2020年12月

2020年1月14日発行

NPO 法人 わっか

月次報告書

25



だけれども、まるごと受けとめられる社会をつくる

わかっかは、だけれども、まるごと受けとめられる社会を目指して活動を行う団体です。

子どもを取り巻く環境について

子どもたちは、思うがままに過ごす時間や、まるごと受けとめられる経験が
少なくなっています。いまの子どもたちは、自分では変えることができない

社会環境や大人の意識の変化により「思うがまま」に過ごす時間や、

まるごと受けとめられる経験が少なくなっています。

大人の価値観による評価、他者との比較や数字で表せる結果で、

子どもの存在を条件付きで認める場ばかりになり、

さらには、地域社会においても、

その子のまるごとを受けとめてくれる存在も少なくなっています。

また、学校、学習塾、習い事、スポーツクラブで多忙な毎日を送り

仲間も時間も空間もなくなりつつあります。

「わかっか」は、2014年3月から活動をおこなっています。

活動当初は、月に1回冒険遊び場を、びわ湖のほとりで行っていました。

遊び場に来てくださる方の声に応えたくて2015年7月から、古民家の開放をはじめました。

毎週月曜日の放課後、日曜日は月に1、2回開けることから始めた古民家開放は

わかっかを通じて出会った人の声に応えるように、活動の幅を広げています。

第二十五号

目次



放課後児童クラブ さかつこクラブ

4

ちよつと立ち止まって 佐藤真紀

5

お弁当・おかずづくりを通じて あすか

7

事業報告

月ようわっか

8

平日わっか

9

かめラボ

10

新年特別企画（日ようわっかおやすみ）

11

十二月にいただいたご寄付

12

居場所づくりサミットのご案内

13

編集後記

15

16

放課後児童クラブ さかっこクラブ 柳生のび

今月が文章はお休みです。その分、写真でお楽しみくださったら嬉しいです。



粘土で空想の世界を作っていました。恐竜が生きてきた世界だそうです



スライムを作っています。いろんな形を作っているのは最終的にはウンコになるという…こどもあるあるのオチ



冬休みのイベントで凧づくりをしました。みんな好きな絵を描いています。鬼滅の刃はダントツで人気でした



ちよつと立ち止まって

佐藤真紀

それは、ぼそつした言葉だった。

「撮るんじゃねえよ馬鹿野郎」。

その声私の耳に入ってきたのは、年末のある公園だった。その日は役所も閉まった年の瀬の公園で、生活や住まいに関する緊急相談会が屋外で開かれていた。関わっているボランティアはおよそ五十人。中には著名な弁護士や、活動家の姿もある。国政政
党の党首の姿もある。寒空の中で相談へと来ていた人は、スタート時点で三〇人くらいだろうか。相談できる内容は労働問題や住まい、医療の相談もできるし、食料の配布も行われていた。必要な場合は生活保護の申請同行や、自治体が借り受けているホテルでの宿泊も可能だ。

そうした野外の開けた相談会の場で、若干震えたその声は私の耳に届いたのだ。それは本当に小さな声で、隣に座っていた私にしか聞こえなかっただろう。

ふと、周りを見渡すと、二十名は優に超えるであろう報道陣。中には身分証も腕章なく、報道であるのかすら分からないカメラマンもいる。相談の場は多くのカメラに囲まれていた。そして、その無遠慮で大きな瞳は相談に来ている人を撮影していた。

もちろん、現場では報道陣受付があったし、「参加者の顔を識別できない形で全景を撮影することは構いません」、「参加者への取材も個別に了解を」とガイドラインも配布されていた。きっと多くの人たちはそのガイドラインを守って取材をしていたと思う。それでも、その声は確かに私の心を大きく揺り動かした。

公園に設置されたパイプ椅子と机で、報道陣に撮られながら窮状を話すことはできるだろうか。著名な人権派で名が通っている弁護士や活動家、政党の党首も相談に来た人と対応している様子を報道陣に撮られていて、なぜ気が付かないんだろか。それとも、気が付いてもプライオリティが低いと思っっているのだろうか。

報道陣には写真を撮る前に、もう一度考えてほしい。そこに、人に対する尊厳はあるのだろうか。

そして、支援者にはもう一度考えてほしい。確かに命は大切に、何よりも優先すべきものである。そして、それを守るための相談会もとても大切なものだ。ただし、そこに人に対する尊厳を守るという姿勢はあったであろうか。支援者のパフォーマンスになっていないだろうか。

私とその公園で出会った人は、ネットカフェで寝泊まりしていたが限界になってきたという人や、親は生きていても「言えないよ」と頼れないことを吐露してくれた。中には片方の靴に穴が開いていたり、住まいを失っているとは見えない同世代の人もいる。

ただ、そのひとりひとりに無機質で大きなガラスの瞳を向ける許可を取っていただろうか。取ったとしても、それは「撮影許可を取らないと支援が受けられない」暗黙の抑圧になっていないだろうか。

たしかに、大切な活動かもしれない。でも、その人を・・・大切にしているだろうか。私たちは、ちゃんと立ち止まって考える必要があるのではないだろうか。

「撮るんじゃないよ馬鹿野郎」。彼が立ち去った後にも、その言葉は心に刺さり続ける。

さとうまき @19hz (Twitter)

現場から現代社会を思考する/大学院生/ファシリテーター/エンジニア→マクロ領域のソーシャルワーカー(社会福祉士|精神保健福祉士)/地域:東京,岐阜,滋賀/領域:地方自治,若者,子ども,虐待,生活困窮,学校,女性,LGBTQ/

お弁当・おかず作りを通じて あすか



毎週金曜のおばあちゃんへのお弁当。
魚が入っていると喜んでくれます。



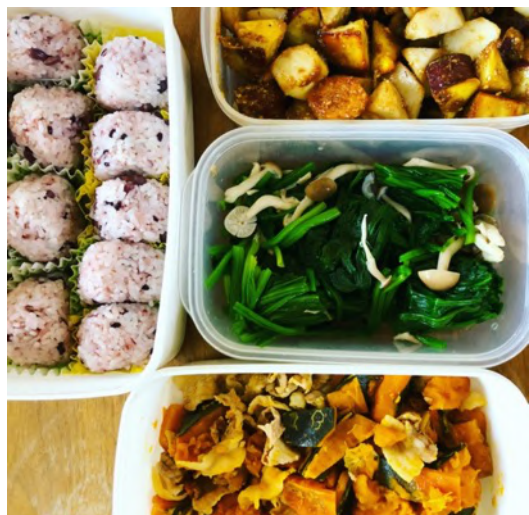
おかずのお届け。黒米が手に入ったので
白米と一緒に炊きました。



旬の『鱈』も、もうすぐ終わり。唐揚
げにしてみました。



めずらしく、カニクリームコロッケ！
若者に届けようと連絡するも、寝ていた
ようでタイミング合わず。残念！



たくさん、おむすびが並ぶと運動会
のお弁当みたいだね。



お魚好きのおばあちゃん、喜んでくれ
るかな。

毎週 月よう日 15:30 ～ 20:00

子ども **29** 名 (**19** 名) おとな **7** 名 (**0** 名)

月ようわっか

() 内の人数がご飯を食べた方持ち帰りも含む

毎週月よう日の放課後に必ずひらかれる場です。参加費無料・申込不要。カリキュラムやプログラムは一切なしで「ルールがない」がルールです。子どものみちくさできる場所、子どものたまり場として場をひらいています。

7日 子ども **10** 名 (**5** 名) 大人 **2** 名 (**0** 名)

メニュー：ごはん、豆腐の味噌汁、鱈と葉野菜の蒸し煮、ブロッコリーのツナ和え

14日 子ども **11** 名 (**7** 名) 大人 **2** 名 (**0** 名)

メニュー：ごはん、白菜と大根の味噌汁、ほうれん草のおひたし、厚揚げ焼き、チキンステーキ

21日 子ども **8** 名 (**7** 名) 大人 **3** 名 (**0** 名)

メニュー：ごはん、白菜とネギの味噌汁、さつまいもとこんにゃくの煮物、サゴシの唐揚げ

28日 おやすみ



平日わっか

毎週火～金요일に開いている場です。参加費無料・申込不要。月요일と同じように、カリキュラムやプログラムは一切なしで、ただ開いている場です。そんな場所に集う人たちと、ゆったりとした時間を過ごしています。



ゲームをしている子たち。古民家に来てまでゲームをするの？大人に聞かれることもあります。ぼくも思わないではないですが、それにはこんなふうを考えるようにしているっていうのがあります。

1つは、子どもたちはゲームに飽きたり、時々ゲームから離れて遊ぶっていうこと。それは、ここで子どもたちと過ごしていて感じるのですが、ずっとゲームをしている子っていないように思います。

もう1つは、彼らがしているゲームを見せてもらったり「なんなん？」と聞くことからコミュニケーションが始まります。彼らは聞くと、きちんと教えてくれます。「ええ、こんなことも知らんの」と笑いながらですが。そんな、やりとりは楽しいものです。

よく言われることですが、子どもたちがしているゲームに興味をもってみてはいかがですか？ 私たちも嬉しいじゃないですか、自分のしていることを興味もってもらって。

(だいのすけ)

かめラボ

子どもたちの「〇〇したい」にできる限り全力で応える場。ある少年は「教員の人事異動を予想するプログラムをつくりたい」と言いました。いまは、姫路城が好きな少年が、マインクラフトで姫路城を作成するのを応援しています。



新年特別企画

12月31日 15:00 ~ 1月1日 12:00

子ども 4名 大人 1名

メニュー：年越し蕎麦（12月31日）

メニュー：お雑煮、きなこもち、お節料理など（1月1日）



写真は、1月1日の10時ごろに振角が息子と古民家に行った時のもの。中に入ると少年がいつものように座っていました。近所のお寺の住職さんは、「ことしもお参りにきてくださってありがとう」とおっしゃっていました。柳生と青木が若者と除夜の鐘をつきにいったことを、教えてくれました。

大晦日に古民家をあけるといって特別な感じがしないでもないですが、そこで流れている空気というのはいつもと変わらないです。

12月に頂いたご寄付

物品でのご寄付 **5**名(団体)

- ・ レトルト食品
- ・ お菓子の詰め合わせ
- ・ 鬼滅の刃の本
- ・ 白菜、くだもの (Hさん)
- ・ 文房具



マンスリーサポーター **26**名

大溪麻紀子、後藤基志、マコトヤ、佐藤真紀、佐藤桃子、廣部奈緒美、前田諭、藤澤彰祐、石田智子、佐藤笑代、三輪恵美、南出吉祥、柴原隼、鈴木愛子、荒巻りか、吉田尚子、永峰美佳、津田千恵子 (敬称略)

都度ご寄付 **2**名

5000円 (居場所づくりサミットの参加費に上乗せして)

2000円 (居場所づくりサミットの参加費に上乗せして)

助成・補助団体、応援企業 **14**団体

米原市、独立行政法人 福祉医療機構、リタワークス株式会社、真如苑、

社会福祉法人 米原市社会福祉協議会、公益財団法人 信頼資本財団

一般社団法人 全国食支援活動協力会、公益財団法人 さわやか福祉財団

社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会、NPO法人 全国こども食堂支援センター・むすびえ

いっぽまえクラブ、タノシニア合同会社、マコトヤ、紙eco (敬称略 2021.1.13 現在)

第四回
居場所づくりサミット

日時：2021年1月31日（日）12:45～16:30
方法：オンライン開催（zoom）
参加費：1,000円

時間	内容
十二時四十五分～十三時	オープニング
十三時～十三時五十分	居場所とはなんだろう 宮田 隼 × 青木 明香
十四時～十四時五十分	学童・児童館の可能性 塚本 ガク × 柳生 のび
十五時～十五時五十分	居場所の今後 小林 由枝 × 佐藤 真紀
十六時～十六時三十分	アフタートーク 佐藤、柳生、青木、振角

タイムスケジュール

コーディネーター 振角

- ・参加費を振り込んでいただいた申込者にオンライン講演会URLをお送りします。
- ・支払い方法 1. 「決済方法の選択」でクレジットか銀行振込を選ぶ。
2. 1,000円寄付を選択。
3. 氏名とメールアドレスは必須です。（メールアドレスに当日のURLを送ります。）

申込→https://www.congrant.com/credit/form?project_id=1589



Profile



よりみちステーション代表

小林 由枝

岡山県倉敷市生まれ。結婚を機に佐賀県武雄市に移住。子育てサークルや家庭教育支援ボランティアを経て、2012年放課後の居場所「よりみちステーションぼちぼちや」を立ち上げる。その後「よりみちステーション」と団体を改め、「ぼちぼちや」自治公民館・「てくてく」中学校・「くむくむ」民家の3箇所でも無料で来られて、自由に過ごせる場を運営。家族は、夫と3人の子ども。



コミュニティハウスひとのま

宮田 隼

大学卒業後、愛知県にて教育関連企業に就職。そこで不登校やひきこもりの問題に直面する。その後、その問題を中心に取り組むことを決め、富山県にて学習塾「守子屋みやた」を創業。翌年、不登校・ひきこもりのフリースクール「ひとのま学園」をスタート。その翌年、誰もが気軽に使える一軒家、「コミュニティハウスひとのま」をスタート。特に「誰のための居場所」ということでなく、場所をあけており、使いたい方はご自由にどうぞという感じですが、ただ場所を開けているだけでは、所謂、社会問題と呼ばれるものもたくさん集まります。それらを一人で抱え込むのではなく誰かと考えられる場所であれたらなあと思います。



(特)こどもNPO 副理事長
名古屋市緑児童館 館長
あいち森ようちえんネットワーク 代表

塚本 ガク

1999年、長野県北部の幼児教室「大地(今で言う「森のようちえん」)」に6年間勤務。2006年、愛知県名古屋市の「てんぱくプレーパーク」にて常駐プレーリーダーを務める。同時に長野の大地スタッフだったエミと、地元刈谷で子ども月1の居場所「遊ぶ場」リトルハウスを立ち上げる。2013年(特)こどもNPOに所属。プレーパークも運営する「名古屋緑児童館」に配属。その後、リトルハウスにて、「よきみプレーパーク」、「ちいさなお庭(平日乳幼児プレーパーク)」、森のようちえん親子組「森へいこう」森のようちえん「こそあとの森」と活動を展開している。支援している意識はなく、自分の地域が暮らしやすくなるというのと自分の為にやっています。プライベートでは2010年エミと結婚。小2、年長、2歳の女子たちとーちゃんでもある。：そして、奥さんは、美人♡



わか

だいのすけ・あすか・のび

2014年から子どもの居場所づくり活動として「冒険遊び場」を始める。翌年、古民家を開放する形で居場所づくりを始め、わかかの名詞とも言える活動となる。わかか「ルールがない」がルールの自由な場。いつ行くかも、どう使うかも、どう過ごすかも、来る人次第。ただ、そこに「のび」と「あすか」と「だいのすけ」がいつも居ることは変わらない。ボクたちは、わかかに来る子どもたちや親たちと「何気ない日常」を過ごすことで居場所づくり活動をしている。活動を通して目指すのは「誰もがまるごと受けとめられる社会」の実現。活動を通して出会ったその人に、ボクらができることってなんだろうって常に考えながら活動をしている。「誰かのためにやる」ではなく、「〇〇のためにやる」ことをモットーにしている。



編集後記

あけまして、おめでとうございます。本年も、わっかのことをよろしく願います。ここまで書いて、違和感で筆がとまりました。佐藤真紀さんの指摘にある『支援者のパフォーマンスになっていないだろうか。』という言葉がよぎったからです、

わっかのことを願います、では何かが違う。だからといって、わっかに集う人たちでもないし、もちろん活動をしている私たちのことでもない。だからといって、まるまるそうでもないと言いきれない。わっかの活動には、この報告書を読んできださっている皆様も含まれていると考えています。だから、わっかというときには、活動をしている私たち、そこに集う人たち、これを読んでくださるみなさんが含まれます。それなら、いいかなと思います。みんなのことをみんなでよろしく願います。

よろしく願いますでは、ぼんやりしますが、これなら言葉として使ってもいいなと思えました。そこで気づきました、最初に使った「わっかのことを願います」には、活動をしている自分たちばかりが含まれていた。おこがましいですね。わっかはそういうものではない場になってほしいと願って今年も活動してまいります。

(だいのすけ)

これからも活動をさらに広げていくために

26名のマンスリーサポーター、クラウドファンディングや資金でのご寄付をくださる方のご支援と、直接や、SNSを通じていただく応援によって、わっかは活動を継続することができています。本当にありがとうございます。

いまの活動を継続すること、さらには古民家をあける時間を少しでも長くすること（具体的には金曜日の開ける時間を少し伸ばすことを考えています）、個別の関わりを充実させていくために資金を必要としています。また、関わるスタッフが現在、ボランティアで行っている古民家開放や若者との生活・就労サポートに、より集中できる環境をととのえるため、来年度は、さらに300万円のご寄付を必要としています。

これまでの7年間の活動で、古民家に集ってくださる方がいます。また、集う時間以外でも、古民家の存在に安心でいるといった気持ちを届けていただいています。また、しんどさを抱えている方への個別のサポートも行えています。

わっかの運営は、みなさんのご寄付で支えられています。ぜひ月1000円から応援できる「わっかマンスリーサポーター」に参加していただけないでしょうか？ご寄付は古民家の運営費、個別のサポート等に使わせていただきます。

マンスリーサポーター登録ページ <https://www.congrant.com/project/wacca/724>

団体名	NPO 法人 わっか
住所	〒521-0012 滋賀県米原市米原 178-5
電話	070-1803-1059 (代表)
メール	wacca235@gmail.com
ホームページ	https://npo-wacca.org
Facebook ページ	こどもと大人の居場所 わっか
Twitter	アカウント名 @NpoWacca
Youtube	アカウント名 NPO 法人わっか振角大祐